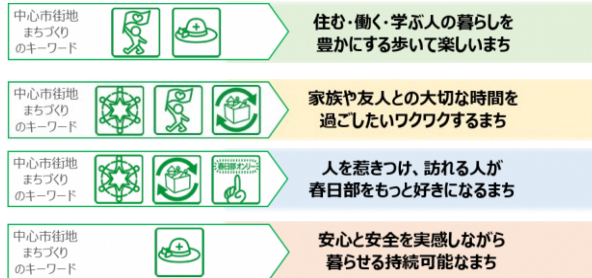


鉄道の高架化とあわせて、エリア価値を上げていきたい！

【取組の概要】

100年に一度の大規模都市構造変換である鉄道の高架化を契機に、渋滞解消・移動円滑化のほか、まちの魅力を高め、まちで活動する人を増やすことを目的に、環状道路整備と公共空間再編により、官民連携にて人中心の空間づくりを進めています。令和3年に「春日部市中心市街地まちづくり計画」を策定し、「公民連携+学」によるまちづくりを進めるための基本的な方針や取り組みが示されました。



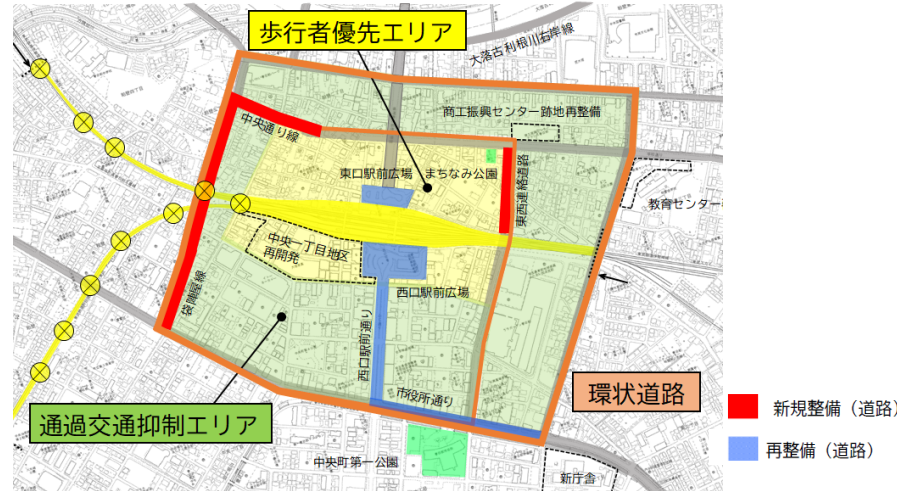
【担当者インタビュー】

春日部市都市整備部都市計画課

柴野 篤志さん



官民連携まちづくり説明会の様子



「人主役」の交通環境整備に向けた方針図



道路空間再編の取組イメージ

Q. この取組におけるあなたの役割・担当は？

中心市街地再生に向け、ウォーカブルの業務に携わって約2年、官民連携のエリアプラットフォームの立ち上げなどを行っています。

Q. あなたにとってウォーカブルに取り組む「最初の一歩」はなんでしたか？

春日部駅西口の藤棚広場や市役所まちなかひろばにてイベントを行いたいという市民の声があり、市民と一緒に試行錯誤しながらイベントの準備や実施に携わったことです。今後、鉄道の高架化により公共空間が増えていく中で、官民連携で取り組みを進めていく良い経験となりました。

Q. 市民、民間事業者、有識者等とどのような「対話」や「工夫」により関係構築を進めていますか？

エリアプラットフォームの立ち上げに向け、有識者の助言や中間支援組織の心強い運営により、市民とワークショップを重ねながら、公共空間をいかに日常的に使いこなすかを話し合っています。子育て、ペット、観光、防災などいろいろなアイデアが出て、今後はエリアプラットフォームでテーマ毎に部会を作って、社会実験等につなげていければと考えています。

Q. 庁内や関係者の「縦割り」の壁を、どのように解消していますか？

官民連携の取組を始めた令和4年度から2年間は、職員を対象に勉強会や講演会を開催し、庁内横断的に推進していくための議論を重ねました。現在は、庁内横断体制も構築でき、部署間の情報共有や連携が円滑化したと感じています。

Q. 日常の居心地を良くするために、今後どのように取り組んでいきたいですか？

鉄道の高架化により新たな公共空間が生み出されるため、今後は空間活用の取り組みなどによりエリアの魅力を上げていくことが大切と考えています。それによって新たな店舗が立地するなどの好循環が生まれることで、エリア価値向上につながるとよいと考えています。